

# 平成 27 年度 第 1 回 泉佐野市環境衛生審議会 会 議 録

- 1 日時 平成 27 年 5 月 18 日（月）午後 2 時～午後 3 時 45 分
- 2 場所 泉佐野市役所 5 階 理事者控室
- 3 議題 諮問事項 家庭系可燃ごみ袋 30ℓ指定袋の導入及び 50ℓ指定袋の在庫限りでの廃止について
- 4 出席者等
  - 出席委員
    - 会 長：梅園 睦夫 （泉佐野市町会連合会会長）
    - 下中 要一 （泉佐野地区公衆衛生協力会会長）
    - 倉持 隆 （泉佐野保健所生活衛生室長）
    - 後舎 敏子 （いずみさの女性センターネットワーク）
    - 松山 彰 （市民公募）
    - 馬場 敏勝 （市民公募）
  - 欠席委員
    - 副会長：神藤 勵 （公益社団法人泉佐野市人権協会理事長）
    - 金野 泰之 （泉佐野商工会議所副会頭）
  - 市出席者
    - 市長 千代松 大耕
    - 事務局：生活産業部長 溝口 治
    - 環境衛生課長 小川 透
    - 環境衛生担当参事 梅谷 政信
    - 環境衛生課長代理 氏本 靖
- 5 傍聴者 1 名
- 6 審議記録（抜粋）
  - ① 開会～配布資料確認（司会梅谷）
  - ② 委員紹介（生活産業部長より）
  - ③ 市出席者紹介（司会より）・市長挨拶
  - ④ 溝口臨時議長進行により会長に梅園睦夫氏、副会長に神藤勵氏を選出
  - ⑤ 梅園会長より就任挨拶
  - ⑥ 市長より諮問～諮問書読上
  - ⑦ 市長退席
  - ⑧ 審議（これより梅園会長を議長とした議事進行）

## 7 議事録【要約】

### 【下中委員】

家庭系収集可燃ごみは、週に何回集めているのか。

### 【事務局】

家庭系収集可燃ごみは、基本的に週に2回です。月・木、火・金、水・土曜日の3パターンに分かれています。

### 【下中委員】

熊取町ではだいたい200で週2回です。300でも大きい感じを受けるのだが。

### 【事務局】

世帯の人数や、分別の状況により、通常使用する袋が決まってきます。

### 【下中委員】

週2なら300で十分ではないか。

### 【事務局】

当市と田尻町は、近隣に先駆けて有料化に取り組みました。当時は450が一般的でありましたが、子育て世帯や介護用としておむつを多く使う場合を含め検討したところ500といたしました。しかし、有料化後9年が経過し、近隣自治体も有料化を進めている状況を見るに、一番大きいところでも450袋の設定が多くなっております。先程ご説明いたしましたように、500袋は通常利用するサイズとしては大きいかなと。どうしても袋に余裕がございまして、心理的に他の資源物でも入れて出したいなどの気持ちになられています。そこで、資源物と可燃物とを分別して出していただくため、もう一度市民の皆様にご協力いただきたいという趣旨で、今回このような施策を検討しております。

### 【松山委員】

資料集 P9 2-(3)について、数式は③+④+⑤となっているが、本来は③-④-⑤なのではないか。

### 【事務局】

(1)の③は手数料としてどの程度マイナスになるのかをとのことで、マイナス表示(▲)をしております。(2)のAとイにつきましては、経費が減るということでプラスの表示で書いておまして、これをすべて足し込んで(3)のトータルしたところ、マイナスの1,800万円になるという標記なのでご理解ください。

### 【馬場委員】

資料6の調査で、高松・市場・日根野・上之郷でサンプリングをおこなっているが、これは市の平均的なところなのか。

### 【事務局】

まず二日間設定しました。4月30日の木曜日は、先程申し上げました月・木曜日に収集される区域から、また、5月1日の金曜日は、火・金曜日の収集区域からサンプリングしようと区域を決めさせていただきました。

### 【馬場委員】

マンションなど若い世代が多いところでは、おむつ等ボリューム感があるものが出されると思われるが、サンプル地域には含まれていないのではないか。

### 【事務局】

ごみの出し方はいろいろございますが、今回のサンプルはマンションなど集合住宅のごみ庫ではなく、路上のごみ出し場所から抽出いたしました。

【馬場委員】

資料集 P9 2 の手数料収入の減について、500から 300に収まるという設定では、60%に減量されていますよということですか。(3)の数値は想定できる最大値ですか。

【事務局】

500から 300にすべて移行するかは分かりません。想定する最大ということですが。正直、一定やってみないと分かりません。

【後舎委員】

近所の方にも聞いてみたところ、植栽を手入れした時などの後始末などに 500袋を利用しており、なくなるのは困る。また、枝木などは短く切って束ね、500袋を結びつけるなどして出している。

集まった主婦の中ではそんな意見が多かった。

【事務局】

P9 の導入計画案骨子をご覧ください。ご自身で植木の剪定をなされる場合、パンフレットには「枝木については、束ねて一束あたり 500袋を 1 枚結びつけることとなっています」。当然、300袋が導入されれば、一束あたり 300袋を 1 枚結びつけて出して頂くように移行する予定です。また、布団やカーペットも同様の取扱いをする予定です。

また、個人的な印象ですが、500ではかなり重い。300+300とか、300+200でも大きき的には変わらないのではないかと。

枝木の剪定や布団等はそうそう頻度が高いものではないし、通常使う袋としては 500では大きい。すかさずの状態では手数料 50 円はもらい過ぎということも言えます。

【後舎委員】

主婦感覚としては、すかさずで出すのは考えられない。

【倉持委員】

市民負担が増えるわけではなく、減量化の可能性があり、いい手法だと思う。

今回の諮問に直接関係はないが、資料集 P2 資料 2 で、有料化した H17 から H18 にかけて約 5,000t (約 20%) 減少している。今まで市民がそれほど多くのごみを出していたとは信じがたい。不法投棄が増えたのではないか。また、P3 資料 3 では泉佐野市の資源化率が府全体を大きく下回っており、違和感がある。母数が大きいのか、子数が小さいのかわからないが、もう少し研究されてはどうか。

資料集 P9 2 では赤だが、ごみ量が変わらなければプラスマイナス 0 ということですか。

【事務局】

有料化当時、関係機関と協力してパトロール強化や監視カメラ設置等対策を行いました。結論的には有料化前後で不法投棄の増減はなかった。ではなぜこのようにごみが激減した理由は、有料化により市民にインセンティブが働いたことで費用負担を少なく留めたいという意識や、当時、生ごみ等の水分を絞るよう啓発を徹底したこともあり、市民の協力による結果だと考えている。

資源化率の算定には事業系のごみを含んでいる。当市の特徴として事業系のごみ量が、他市に比べ多い。また、事業所では、紙などは、ごみとして出さずに有価で売っているところもある。そのため率計算の分子が、他市に比べ少なくなっている。

P9 については想定できる最大値なので、何年か継続してその結果を見なければ。

【倉持委員】

不法投棄に増減がなく市民の協力による点は感心した。資源化率については、事業所が売却している量を把握して計算に乗せることができれば率があがるのではないかと。

【事務局】

先取り業者や資源として購入する業者が多いのは事実と思います。市によっては条例で先取りを禁止しているところもあるが、条例を制定すればパトロール等も必要になりコストもかかる。先取り業者が集めたものも確実に資源化されている。資源化率が府内平均を下回っているということを啓発の理由にはしたくない。

【下中委員】

熊取では集団回収を行っているが、この数字には入っているか。

【事務局】

入っています。私どもが言いたいのは、府平均の半分ですよというよりは、有料化以降、率が上がっていますよということを言いたいための資料です。

【松山委員】

スーパー等で資源ごみ回収箱があるがそれは数値に入っているのか。

【事務局】

数値には入っていません。

【梅園会長】

資料集 P6 の写真だが、知らずに資源物等を混入しているのか。更に分別の啓発や PR が必要ではないのか。また、P9 の数字では 1800 万円の減収になるのは、単に袋だけのプラスマイナスの数字ではないのか。たとえばごみの減量なども考慮に入れ、焼却経費の減なども加算できれば。さらに、H17 から H18 にかけて減少した 5,000t には資源ごみも入っていたのか。

【事務局】

有料化前の可燃ごみ袋の中身は、まさに P6 の A のイメージだった。つまり、可燃ごみ以外に新聞紙やカン、ペットボトル、容器包装プラなどが混じっているのが常態でありました。それをすべて焼却場で燃やしており、焼却炉の傷みなど問題がございました。有料化後、可燃ごみと資源ごみを分けてください、別の日に収集しますよ、など分別の啓発をおこなうことで 5000t 以上の減量効果が出てきたものと思います。

P9 の手数料収入の減については、500 から 300 に移行する場合の手数料収入の減、そして製作費や販売店への事務手数料などの経費、それらを一定予測したものであります。

【梅園会長】

工夫をして分別の PR をお願いしたい。

【松山委員】

資料集 P9 (2) の 300 の 125 万枚製作とした根拠はなにか。

【事務局】

資料集 P4 (2) では、500 袋は 125 万枚～130 万枚で推移している。また、H27 の予算は 500 を 125 万枚製造する額を計上しています。この 500 が全て 300 に置き換わると仮定した数字です。単純にいくわけではありませんが、それは 1～2 年推移を見ていく必要があると考えます。

【倉持委員】

数字の遊びの部分だが、掲げている目標の数値から減収見込みを設定すべきでは。10 年後に 10% 減量化するという目標であれば、その点からトータルの量を出し枚数などの数値化をすべきではないのか。やってみないと分からないのは間違いではないが。

【事務局】

仰る手法で設定すれば減収見込み額は減ります。予測は難しい部分もあり、毎年収支を公開して分析していく予定です。

**【後舎委員】**

可燃ごみに資源物が混入しているとあるが、地域差はあるのか。

**【事務局】**

そこまでの分析はしていないが、集団回収している地域とそうでない地域とでは差はあると考えられます。

**【梅園会長】**

いずれにしても、様々な観点から数値等を取りまとめ、市民に周知、PR していく必要がある。

他に意見がなければ、頂いたご意見を事務局で取りまとめ、次回答申案を提出、審議の予定。この間、ご意見等があれば直接事務局へ問い合わせてください。

～終了